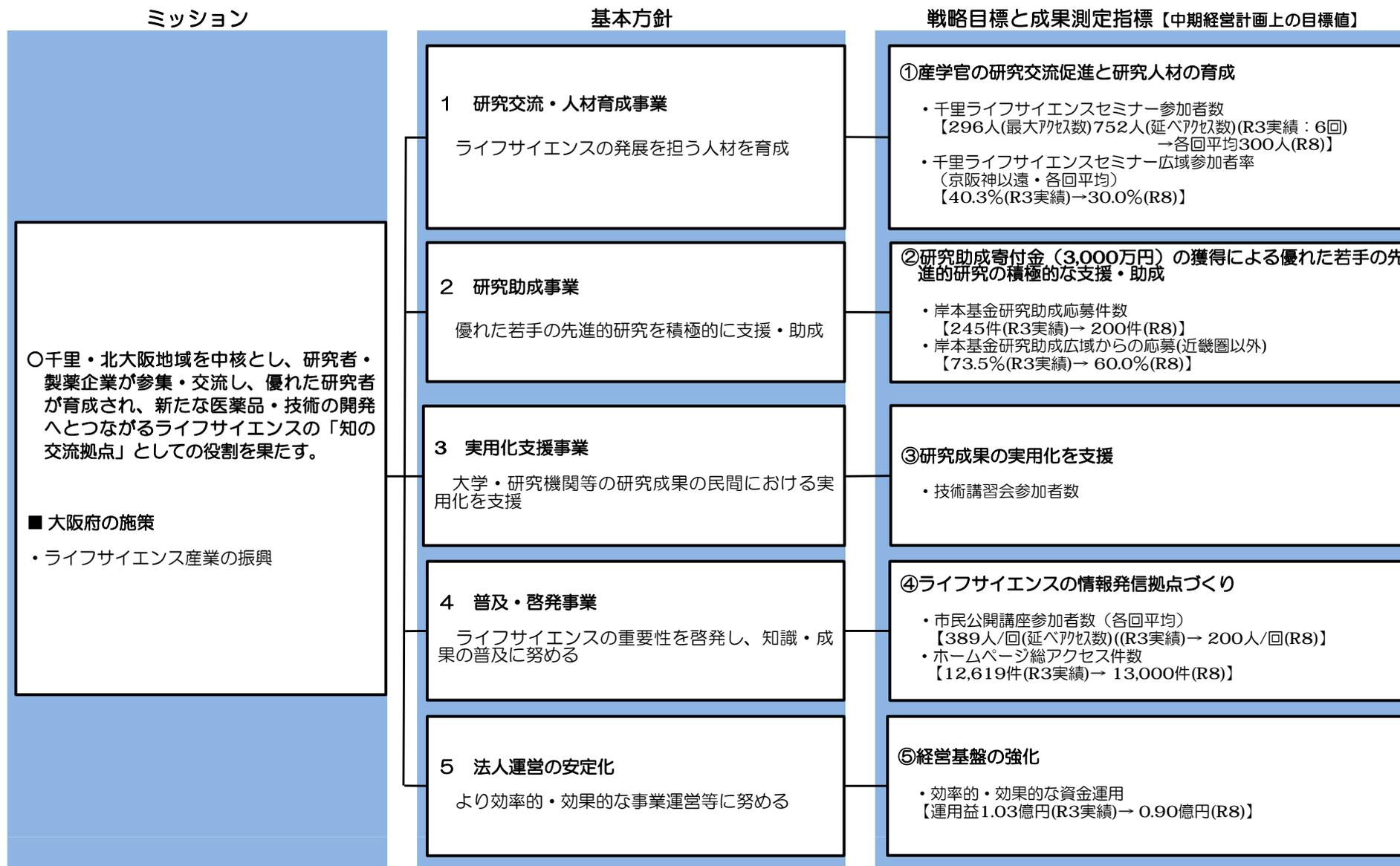


法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
作成（所管課）	商工労働部成長産業振興室ライフサイエンス産業課

○ 経営目標設定の考え方



○ 令和5年度の経営目標達成状況及び令和6年度経営目標設定表

I. 最重要目標(成果測定指標)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R5 ウエイト	R4 実績値	R5 目標値	R5 実績値 [見込値]	R6 目標値	R6 ウエイト	中期経営計画 (R4~R6)		R6目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
										R6 目標値	最終年度 目標値	
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナー参加者数(各回平均) (リアル参加者数+実人数アクセス数)		人	30	-	300	344	↓ 300	30	300	300	・R5年度は人気の高い創業に関するテーマが3回、注目度が高い再生医療関係のテーマが2回及び国際シンポジウム1回の計6回を開始し、平均340人を超える参加者数であった。 ・R6年度は5回のセミナーを予定しているが、参加者が多い創業に関連したテーマが1件と少なく、やや領域的に狭く専門的なセミナーが2件あるため、中期経営計画の目標値に設定。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										戦略目標達成のための活動事項		
最重要とする理由、経営上の位置付け	<p>○財団は設立当初より、ライフサイエンス分野の発展を担う創造性・独創性豊かな産・学・官の研究人材の育成・質的向上を支援する事業を特に重要な事業と考えている。</p> <p>○実績を見ても千里ライフサイエンスセミナーや新適塾の参加者満足度調査とも一定の評価が確立してきた。そこで千里の地から全国への情報発信を狙いとし、旬のテーマを選び全国の第一線の研究者を招いて実施しているセミナーを最重要目標としたい。</p> <p>○この場での触発を通じ、新たなイノベーションを生み出す若手研究人材の裾野を広げていくことこそが、財団の設立精神である「知の交流拠点」を実現したものであることから、産学官の研究交流促進と研究人材の育成を目指した千里ライフサイエンスセミナーへの参加者数を、最重要の成果測定指標とした。</p>										○セミナーの個別テーマについては、企画委員会で十分協議し、各テーマと担当コーディネーターを具体的に選定。	
最重要目標達成のための組織の課題、改善点	<p>○企画委員会で各委員(アカデミア・企業の20名)から旬のテーマ提案を募り、協議の上、毎年5テーマを選定し、これらのテーマに関する日本を代表する研究者をコーディネーター候補に選定。当該コーディネーターに、発表者選定を委任する運営を確立し、魅力あるセミナーの企画を行っている。</p> <p>○今後も、積極的な広報活動や新鮮でエキサイティングなテーマ設定、当日の意見交換の場の確保などにより、参加者及び満足度の安定的な確保を図るとともに、全国的なライフサイエンスの拠点として広く認知され、より幅広い人材の交流がなされるよう、取り組んでいく。</p>										<p>○北海道から九州まで各大学、研究機関の第一線研究者から選定し、全国から幅広く参加者を募っている。また、若手研究者からの発表も可能となるよう、発表時間(短時間)を工夫している。</p> <p>○セミナー参加者の増加に向け、関係する学会誌・業界専門誌及び各ホームページなどへの無料掲載等により周知・広報に努めている。</p> <p>○ハイブリッド開催を原則とする。</p> <p>○年度当初にテーマ、コーディネーターを決め、年間スケジュールを広報する。</p>	
活動方針	○事業の企画等を検討する企画委員会において、上記を踏まえた十分な検討を行い魅力ある旬のテーマ設定やコーディネーター・講師の選定を行う。											

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
-----	----------------------

Ⅱ. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R5 ウエイト	R4 実績値	R5 目標値	R5 実績値 〔見込値〕	R6 目標値	R6 ウエイト	中期経営計画 (R4～R6)		R6目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R6 目標値	最終年度 目標値		
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナー広域参加者率 (京阪神以遠参加者数/総参加者数)		%	10	(47.1)	35.0	54.4	↓ 50.0	10	30.0 (90人/300人)	30.0 (90人/300人)	ハイブリッド開催の定着によるWeb参加者の増加傾向の中で、会場参加者の減少を防ぐため、50%以上とする。	企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、魅力あるテーマ、講師の選定を進める。
② 研究助成寄付金(3,000万円)の獲得による優れた若手の先進的研究の積極的な支援・助成	岸本基金研究助成応募件数		件	10	191	200	246	↓ 200	10	200	200	中期経営計画の目標値に設定	財団HPで応募要領を開示するとともに、自然科学分野に関する学部・大学院を有する主要大学の学部長・研究科長に応募要領を送付し、学内での案内を依頼する。
	岸本基金研究助成 広域からの応募(近畿圏以外) (近畿圏以外応募件数 / 総応募件数) ※60.0%以上70.0%以下が適正水準		%	10	72.8	60.0～70.0	× 59.3	60.0～70.0	10	60.0	60.0	中期経営計画の目標値をもとに設定 ※60%～70%の範囲内であった場合のみ加算	全国の主要大学に応募要領を送付するなど積極的な周知を図るとともに、研究助成業務支援システムの活用により、全国から応募しやすい体制づくりを行う。
③ 研究成果の実用化を支援	技術講習会参加者数 (目標値:上段「技術解説」下段「技術実習」)		人	10	65 14	50 10	192 15	—	—	50 10	50 10	中期経営計画の目標値に設定 ※すべて達成の場合のみ加算	関係学会、関係企業への広報及び財団HPへの掲載に加え、財団のメール会員への広報を行う。
	技術講習会参加者数 (目標値:上段「技術講習」下段「実技講習」)	☆	人	—	—	—	—	50 50	10	—	—	要望の多い技術講習会に応えるため形式を変更 ※すべて達成の場合のみ加算	関係学会、関係企業への広報及び財団HPへの掲載に加え、財団のメール会員への広報を行う。
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	千里ライフサイエンスフォーラム 会員参加者比率(各回平均) (会員参加者数 / 会員数)		%	10	72.8	66.7	× 50.2	—	—	66.7	66.7 (会員数150)	中期経営計画の目標値である会員数の2/3(=66.7%)に設定	会員の高齢化とともに新会員の増加が課題となっているが、会員にとって魅力あるフォーラムとするため、ライフサイエンスのみならず様々な分野のトピックを取り上げ、新規会員の獲得を行う。
	市民公開講座参加者数(各回平均) (リアル参加者数+実人数アクセス数)	☆	人	—	(190)	—	(150)	180	10	—	200	中期経営計画の目標値である計画期間内に200名/回達成に向け段階的に近づけていく。	北大阪地区の公共施設(駅、図書館等)へのポスター掲示、新聞への広告、一般メール会員への広報とリニューアルした財団HPへの掲載を行う。
	ホームページ総アクセス件数(月平均)		件	10	13,017	13,000	17,255	↓ 13,000	10	13,000	13,000	中期経営計画の目標値に設定	Zoomウェビナーの活用等HPを経由しないでWeb聴講できるようにしたため、アクセス数減少の可能性があるが、財団HPのコンテンツ充実、新規セミナーの掲載案内、メルマガへの掲載依頼等を通じ、財団HPへのアクセス件数の増を図る。

Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

⑤ 経営基盤の強化	効率的・効果的な資金運用		億円	10	1.08	0.90	1.09	↓ 0.90	10	0.90	0.90	中期経営計画の目標値に設定	資産運用規程に基づき、長期的な観点からのより効率的・効果的な資金運用を行う。
-----------	--------------	--	----	----	------	------	------	--------	----	------	------	---------------	--

【凡例】
 ・☆はR6年度からの新規項目
 ・×は目標値未達成
 ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
 ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
 ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

CS 調査の実施概要

○令和5年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
セミナー参加者満足度	アンケート調査	セミナー参加者	905	年6回開催

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
<p>セミナー開催時に、参加者に対しセミナー内容に関するCS調査を行った結果、「大いに役立った」+「役立った」が6回平均93.2%（（「大いに役立った」+「役立った」）/全回答（「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」+「役に立たなかった」））であった。</p>	<p>（結果を踏まえ実施した取組） 企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、引き続き魅力ある旬のテーマ、講師の選定を進め、参加者の今後に役立つセミナーを維持していく。</p> <p>（今後実施予定の取組） アンケートの満足度だけでなく、自由意見の中から改善点を見つけ出し、引き続き、安定的なセミナー参加者の満足度（「役に立った」以上）を確保する。</p>

○令和6年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
セミナー参加者満足度	アンケート調査	セミナー参加者	1,500	年5回開催

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

〔1〕

成果測定指標	単位	R5年度目標値	R5年度実績値	目標値との差
岸本基金研究助成 広域からの応募（近畿圏以外） （近畿圏以外応募件数 / 総応募件数） ※60.0%以上70.0%以下が適正水準	%	60.0～70.0	59.3	0.7

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	例年、大阪府の割合は15%前後であったが、2023年度は25.2%と大幅に増加した。近畿圏以外からの応募数も増加しているものの、大阪府の大幅増の影響で、結果的に近畿圏の割合が増加し、目標から0.7%未達となった。			大阪大学、大阪公立大学に積極的に広報した結果、大阪大学42件（2022年：13件）、大阪公立大学10件（2022年：0件）と2大学で52件と大幅に増加した。近畿圏からの応募数が、100件（2022年：52件）、近畿圏以外の応募数146件（2022年：139件）と昨年に比べ増加しているものの、大阪府の増加分の影響が大きかった。						→ 全国の主要大学に応募要領を送付するなど積極的な周知を図るとともに、研究助成業務支援システムの活用により、全国から応募しやすい体制づくりを行う。
	関連項目名	岸本基金研究助成 広域からの応募	単位	%	R5当初想定値	60.0～70.0	R5実績値	59.3	差	
②										→
	関連項目名		単位		R5当初想定値		R5実績値		差	
③										→
	関連項目名		単位		R5当初想定値		R5実績値		差	

■ 目標値未達成の要因について

〔2〕

成果測定指標	単位	R5年度目標値	R5年度実績値	目標値との差
千里ライフサイエンスフォーラム 会員参加者比率（各回平均）（会員参加者数 / 会員数）	%	66.7	50.2	△ 16.5

未達成の要因				要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	会場参加者が、毎回30名前後とコロナ以前の70名前後から大幅に低下している。 また、オンデマンド配信の視聴も増加していない。 (11月は最も参加者比率が低かった月である)			会員が高齢化（多くの方が70歳以上）しているため、会場参加者が毎回30名前後とコロナ以前の70名前後から大幅に低下している。他のセミナー、新適塾なども会場参加者はコロナ前に戻っていないが、WEB視聴は増加している。しかしながら高齢者の場合、ネット配信の視聴は不慣れなためか、オンデマンド配信の視聴も増加していない。						今後、比較的若い方（60歳以下）の新規会員を増やして、近隣の方（大阪）は会場、遠方はオンデマンド配信を視聴いただくように、会員募集を重点的に実施する。 *会員以外にも、オンデマンド配信を短期間実施しており、40名前後の方が視聴しているため、こういった方々を継続的に取り込む施策を行っていく。
	関連項目名	11月参加者比率	単位	%	R5当初想定値	66.7	R5実績値	37.9	差	
②										
	関連項目名		単位		R5当初想定値		R5実績値		差	
③										
	関連項目名		単位		R5当初想定値		R5実績値		差	

■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

〔1〕

●変更前

R5年度の 成果測定指標	単位	R5年度の 目標値
技術講習会参加者数 (目標値；上段「技術解説」下段「技術実習」)	人	50 10

●変更後

R6年度の 成果測定指標	単位	R6年度の 目標値
技術講習会参加者数 (目標値；上段「技術講習」下段「実技講習」)	人	50 50

成果測定指標の
変更（廃止）を
希望する理由

技術講習会は参加希望者が多いが、従来技術解説はZoomを使い講師との質疑応答のやりとりを考慮し50人を上限としていた。また、技術実習は少人数で一人ずつ指導する必要があることから10人を限度としていた。
しかし、今後はより多くの参加希望者をより効果的に受け入れるため、リアル開催のみとし、技術解説、技術実習ともに講習の形式に変更することとした。目標値の設定については他のイベントの会場参加者が50人に満たないが、技術講習会は人気であることを考慮し50人を目標値とする。

- (R5) 会場参加者数 (各回平均)
- ・セミナー 38人
 - ・新適塾 35人
 - ・フォーラム 30人

〔2〕

●変更前

R5年度の 成果測定指標	単位	R5年度の 目標値
千里ライフサイエンスフォーラム 会員参加者比率 (各回平均) (会員参加者数 / 会員数)	%	66.7

●変更後

R6年度の 成果測定指標	単位	R6年度の 目標値
市民公開講座参加者数 (各回平均) (リアル参加者数 + 実人数アクセス数)	人	180

成果測定指標の
変更（廃止）を
希望する理由

千里ライフサイエンスフォーラムは普及啓発事業の収益等事業であり、会員を中心にライフサイエンスにとどまらずより広く教養の向上、生涯学習の場を提供するものである。一方、市民公開講座は同じ普及啓発事業の公益目的事業であり、ライフサイエンスを分かりやすくより多くの一般市民に啓発することを目的としている。よって、より財団の公益目的に沿った指標として、会員中心のフォーラムより市民公開講座の参加者数を目標値としたい。市民公開講座は年2回開催し、京阪神は会場参加が可能であり、全国的にもWeb配信で参加が可能である。現在中期経営計画 (R4~R8) において市民公開講座の成果目標として、計画期間内に200人/回達成としており、R6から段階的に200人に近づけていく。

$[200 \text{ (中期経営計画期間内最終目標値)} - 170 \text{ (R4,R5の平均)}] / \text{残り3年 (R8-R5)} = 10 \text{ (年間増加人数)}$
 $170 + 10 = 180 \text{ (R6目標値)}$

R4 ⇒ R5 ⇒ R6 ⇒ R7 ⇒ R8
 190 150 180 190 200 (人)

■ 令和5年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R5年度の実績値〔見込値〕	R6年度の目標値
千里ライフサイエンスセミナー参加者数（各回平均） （リアル参加者数+実人数アクセス数）	人	344	300

<p>マイナス （現状維持） 目標の考え方</p>	<p>令和5年度は、創薬に関するテーマ3回、注目されている再生医療関係テーマ2回と国際シンポジウムの計6回を開催し、平均340名を超える参加者数であった。 R6年度は全てハイブリッド開催で5回開催を予定している。 セミナーについては、企画委員会でテーマを選定しているが、令和6年度は人気がある創薬に関連したものが1回と少なく、また「医療と生命科学における AI 活用」、「感覚から見た感情・感性のコントロール」は、やや領域的に狭く専門的なテーマである。そのため、様々なテーマがある中で毎年平均300名以上の方に参加いただくことを目標として中期経営計画の目標値を設定。</p>
-----------------------------------	---

〔2〕

成果測定指標	単位	R5年度の実績値〔見込値〕	R6年度の目標値
千里ライフサイエンスセミナー広域参加者率 （京阪神以遠参加者数/総参加者数）	%	54.4	50.0

<p>マイナス （現状維持） 目標の考え方</p>	<p>千里ライフサイエンスセミナー広域参加者率は、R5年度からその実績を1年分把握できたところであるが、近郊の京阪神からの参加者率は45.6%、京阪神以遠の参加者率は54.4%となった。セミナーは昨年度より全回ハイブリッド開催で実施しており、参加者数の約9割がWEBからの参加で、WEB参加者数が非常に高くなっている。また、そのうちの約6割が京阪神以遠からの参加者となっており、これが広域参加率が高くなった要因である。（参考：R元年度（会場開催のみ）の広域参加率21.8%）昨年度以降、回を追うごとに会場参加者数が増加してはいるが、今後さらにその数を増やすことが課題と考え、セミナー終了後に名刺交換会を開催するなど現在は集客に様々な工夫をしている。 従って、適正水準はこの取組みが浸透するR6年度の実績を踏まえる必要があるが、今年度は、R5実績を踏まえ昨年目標（35%）に15%上乗せ、中期経営計画の目標（30%以上）に20%上乗せした50%以上を最低目標とする。（中期経営計画目標30%以上：90/300以上）。 なお、会場参加者数の目途が立った時点で、上限の設定や広域参加率を指標にするかどうかと言った観点についても検討したいと考えている。</p>
-----------------------------------	--

■ 令和5年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R5年度の実績値〔見込値〕	R6年度の目標値
岸本基金研究助成応募件数	人	246	200

<p>マイナス （現状維持） 目標の考え方</p>	<p>年度毎の応募数は様々な要因でバラついているものの、他の助成金に比べて採択倍率が高く（12倍～16.4倍）競争性があり十分に応募助成金としての役割を果たしている。</p> <p>これまでの、経緯からも12倍以上の倍率があれば、十分高いレベルの採択者を選択することができている。</p> <p>助成金事業として競争力があり高いレベルの研究者に助成するという観点から200件程度の応募があれば十分と考えている。</p> <p>よって、中期経営計画の成果目標と同値とした。</p> <p>* いたずらに、倍率が高くなりすぎると応募の敬遠や様々な施設、研究者からの応募がなくなる恐れがある。</p> <p>R1 ⇒ R2 ⇒ R3 ⇒ R4 ⇒ R5 196 181 245 191 246 (件)</p>
--	--

〔4〕

成果測定指標	単位	R5年度の実績値〔見込値〕	R6年度の目標値
ホームページ総アクセス件数（月平均）	件	17,255	13,000

<p>マイナス （現状維持） 目標の考え方</p>	<p>HPのアクセス数については、これまでHP内の内容や見栄え、見やすさの充実などHP全体の魅力アップを図るとともに、令和4年にSSL暗号化（http→https）したことにより、HPの対外的な信頼度が増したことによりアクセス数が増加した。また、昨年度はHPリニューアルに向け、業者とその担当者によるアクセスが相当数増加したことによりアクセス数が大幅増加したと考えられる。</p> <p>HPリニューアル後、今年2月に新HPとなり、より見やすく使いやすい仕様に変更したが、一方でセミナー等のイベント参加者等の利便性を考え、QRコードやURLを設定し目的のページへダイレクトに導くようにしたことを踏まえ、また、新HPのアクセス数の実績を1年間把握した上で目標値を検討したいと考えている。よって、中期経営計画の成果目標と同値とした。</p>
--	--

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
-----	----------------------

■ 令和5年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔5〕

成果測定指標	単位	R5年度の実績値(見込値)	R6年度の目標値
効率的・効果的な資金運用	億円	1.09	0.9

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>当財団は長引く低金利下において、安全かつできるだけ有利な運用を行うため資金運用の約6割を為替連動の仕組債等で運用している。 昨今、円安傾向が続いていることから高金利による運用利息を得られているが、この円安傾向が今後も長期間にわたって継続する保証はないため、中期経営計画の収支計画で見込んだ収支相償を実現するために必要な0.9億円を目標とした。</p>
-----------------------------------	--

〔6〕

成果測定指標	単位	R5年度の実績値(見込値)	R6年度の目標値

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	
-----------------------------------	--